



モユウ★カムイ 129

NO.

●モユウ・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

October 2026

ASAHIYAMA ZOO NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース

表紙:

第58回旭川市旭山動物園

児童動物画コンクール

優良賞 秋月こども園

森いちの さん

もくじ

ぼくは動物大使 その90

森の歌手 シロテテナガザル 1.2

特集 動物舎の床 3.4

～動物の健康管理は床から～

飼育研究レポート 5

～アムールヒョウのみらいの出産と子育て～

新マヌルネコ舎がオープン 6

新人スタッフ紹介

主なできごと・編集後記・飼育動物数 ..7

ASAHIKAWA
CITY

シロテテナガザル

学名 *Hylobates lar*
 英名 White-handed Gibbon
 分類 霊長目 テナガザル科
 テナガザル属

体毛には様々な色があるが、顔の周囲、手足が白いことが特徴。

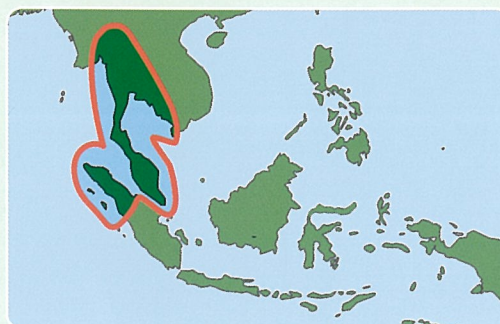
野生では高い木の上で暮らし、ほとんど地上に降りることがない。

霊長目のなかでもヒトに近い類人猿の仲間、尾がないが、チンパンジーなどに比べて体が小さいため小型類人猿とよばれている。

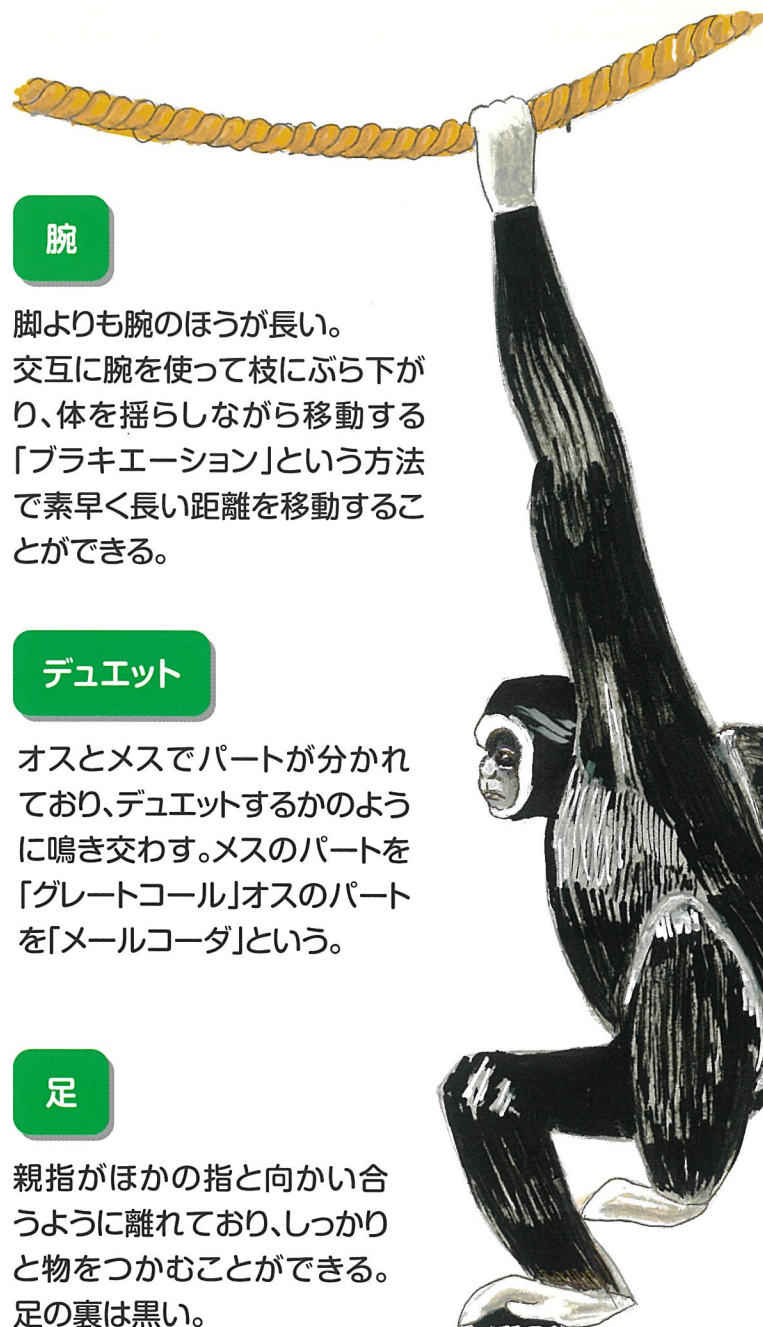
まるで歌のような大きな鳴き声でコミュニケーションをとり、その声は数km先まで届く。歌にはなわばりを守るほか、家族の絆を維持するという役割がある。

シロテテナガザルの分布

□ 分布している場所



タイ、マレー半島、スマトラ島北部



腕

脚よりも腕のほうが長い。交互に腕を使って枝にぶら下がり、体を揺らしながら移動する「ブラキエーション」という方法で素早く長い距離を移動することができる。

デュエット

オスとメスでパートが分かれており、デュエットするかのようには鳴き交わす。メスのパートを「グレートコール」オスのパートを「メールコーダ」という。

足

親指がほかの指と向かい合うように離れており、しっかりと物をつかむことができる。足の裏は黒い。



家族

一夫一婦のつがいを形成し、そのつがいの子どもからなる「家族群」と呼ばれる小さな群れを構成する。つがい関係は生涯持続する。

手

親指が下側についており、ほかの4本の指が細長い。この4本の指をフックのように枝に引っ掛けて移動をする。手のひらは黒い。



おしり

尾はない。かたく、毛が生えていない尻ダコとよばれるでっぱりがついている。クッションの役割を果たし、枝の上でも安定して座ることができる。



ようこそミール



同居の2日前
小窓に張り付くモンロー

2025年7月3日に神戸市立王子動物園よりオスのミールが移動してくれました。段階を経てお見合いをする予定でしたが、モンローが興味津々な様子だったことから来園7日目にはすんなりと同居を開始できました。それから1年以上が経過しましたが、2頭は一度も喧嘩をすることなく、穏やかに日々を過ごしております。朝に2頭でデュエットをする様子は必見です。

旭山のシロテテナガザル



モンロー メス
2008年 8月 3日
九十九島
動植物園うまれ

ミール オス
2015年 11月 11日
神戸市立
王子動物園
うまれ



特集 動物舎の床

～動物の健康管理は床から～

皆さんの家の床はフローリングですか?それとも畳でしょうか?もしかしたらタイルの家もあるかもしれませんね。動物たちの家である、動物舎の床もいろいろな素材があります。それぞれ一長一短ですが、どんな床になっているかは理由があります。今回の特集はそんな動物舎の床について見てみましょう。

動物舎の床に求められるものとは?



動物舎の床で一番大事なことは、そこで暮らす動物が快適で健康に暮らせるかどうかです。例えば水鳥であれば、プールがなければいけませんし、多くの動物にとってゆっくり休める床である必要があります。

一方で、動物が健康に暮らすためには常に清潔である必要があります。汚い環境では、餌も汚染されますし、感染症の心配もあります。また、足を怪我するようなことがあってはいけません。

最後に大事なことは、管理のしやすさです。例えば動物にとって快適でも清潔を保つために掃除がすごく大変になると、結果的に清潔を保つこともできずに不快になってしまいますので、ある程度掃除しやすいことも大切です。

従来の動物舎の床たち

約60年前に開園した当初の動物舎の床は3つの要素のうち、「清潔」と「管理のしやすさ」が重視されていたと考えられます。現在ほど飼育方法が確立されていない動物たちをとにかく死なせないためには、まず清潔に飼育することが大事だったからです。

また、飼育スタッフも今ほど多くはなかったことから、掃除しやすいことも大事でした。そのため、多くの動物舎の床はコンクリート製で水掃除がしやすい構造でした。

一方で、旧総合動物舎のキリンの寝室はざらざらしたすべり止め加工がされていて、キリンが滑って転ばないような安全性の配慮もされていたことがわかります。



動物が快適にすごせるための工夫

もうじゅう館

もうじゅう館の床は基本的にコンクリートです。ネコ科のおしっこのおいにはきついで、毎日水掃除が必要になります。一方で、高いところが好きなヒョウの部屋にはやぐらを組んだり、他の部屋にも木製のこの寝台を置いたりとしています。その中で特徴的なのがアムールヒョウの「デン」の部屋の床で、コンクリートに波模様が彫ってあります。これはデンマークから来園した当初、デンが床を前足でこする癖があり、肉球が擦り切れて出血を繰り返していたため、それを防ぐためにつけました。今はほとんどしなくなり、高いところに設置した棚状の板でのんびりしていることが多くなりました。

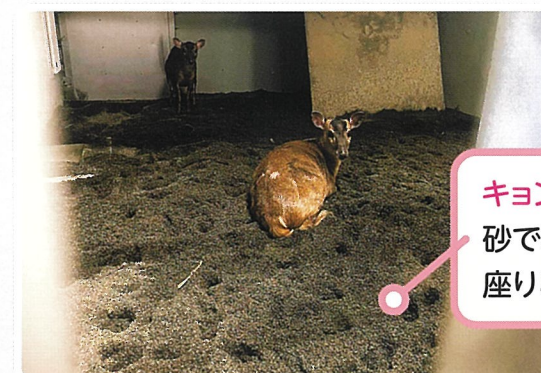


床はコンクリートですが木製の寝台を設置しています



キリン・キョン

キリンやキョンの寝室も基本的にはコンクリートですが、一部の部屋を砂を敷いています。元々は座って休むために乾草を敷いていましたが、より快適に座ってもらうために砂を敷いています。砂の上に糞や尿をするために、掃除は大変になり、定期的に砂を補充する必要がありますが、当初思っていたよりは臭いなどもなく清潔に維持できています。



ととりの村

水鳥達が冬期間を過ごす屋内の床は、元々は緑色のゴム状の素材でした。水鳥は固い床で過ごす「趾瘤症」という足裏が腫れたり、傷から感染する病気になってしまうための対応でした。それでも趾瘤症が発生するため、一部は玉砂利を敷いていました。ところが、これらは掃除が大変で、ゴミもたまりがちでした。

そのため今は玉砂利をモルタルでかためた足つぼマットのような床にしています。掃除もしやすく、趾瘤症も防げるようになりました。

元々のととりの村の屋内の床
ゴム製の床の上に砂利が敷いてある



ゴムをはがして、砂利を埋め込んで加工
鳥の足にも良く、ゴミもたまりづらくなりました



飼育研究レポート

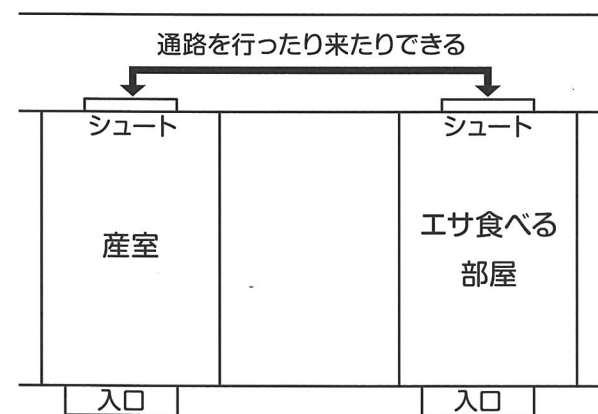
～アムールヒョウのみらいの出産と子育て～

8月4日の朝、みらいが産しました。モニターを確認すると、前日の8月3日21時50分頃に出産していたことが分かりました。授乳も確認でき、みらいは落ち着いた様子でした。出産後は少しでもみらいが安心して子育てできるような環境づくりを心掛けました。

出産後の3日間、みらいはほとんど産箱の中で過ごし、授乳をしたり仔の体をなめたりと、片時も離れず世話をしていました。仔は生後5日頃から目が開き始め、みらいも少しずつ仔から離れて休むようになりました。その後は仔をくわえて産箱の外へ連れ出す姿も見られるようになり、8月下旬には、まだ足取りのおぼつかない仔が、みらいのそばでヨチヨチと歩くようになりました。

9月に入ると仔の歩き方もしっかりし、みらいは仔をくわえて産箱の上へ連れて行くようになりました。アムールヒョウは木登りが得意な動物です。仔がある程度しっかりしてきたことで、高い場所の方が安全過ごせる場所だと判断したのかもしれません。

仔が自分で産箱の上から降りようとする、みらいが行く手を阻んだり、くわえて降ろしたり、反対に上へ戻したりすることもありました。そんな日が何日か続いた後、ついに仔が自分の力で階段を降りる姿を見ることができました。



アムールヒョウ寝室

出産直後は片時も仔から離れなかったみらいが、仔の成長とともに少しずつ距離を取り、行動しようとする仔をそばで見守るようになりました。仔もみらいのそばで行動範囲を広げ、自分の力で歩いたり降りたりするようになっていきます。これからも日々変化していく親子の様子を、しっかりと観察しながら見守っていききたいと思います。

(もうじゅう館担当 原田 佳)



目が開き始めた頃



産箱の外で休むみらい



元気に育ってます

新マヌルネコ舎がオープン!

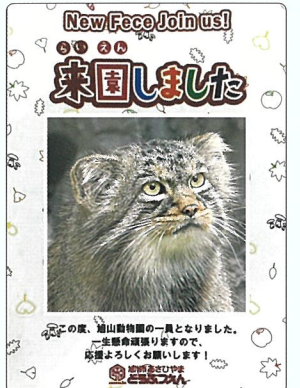
今年の夏期開園オープンに向けて工事を進めていたマヌルネコ舎が、5月1日にオープンしました。増築した放飼場へは元々の場所から複雑な橋を移動していくため、時間をかけて「グルーシャ」を慣れさせていく予定でしたが、意外に移動もすんなりいき、すぐに新しい放飼場に慣れていきました。それでは、新マヌルネコ舎を少しだけ紹介します!



放飼場は反射しにくいガラスにし、放飼場内のマヌルネコを観察しやすいようになっています。



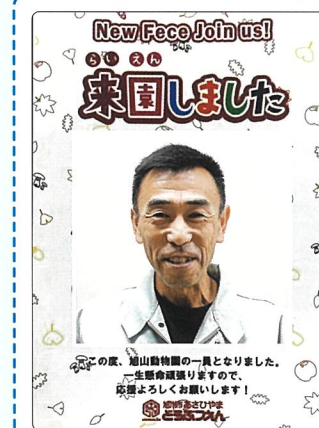
放飼場の岩場(擬岩)が、マヌルネコの毛色の保護色になり生息環境を再現しています。他にも芝生部分もあります。



6月10日に東山動植物園から新たに「ヒデ」が来園しました。

新人スタッフ紹介

4月から新たに飼育スタッフが正職員として加わりました。今後の成長を見守っていただけると幸いです。



高井 望 (たかい のぞむ) 【担当: トナカイ・ダチョウ・ヤマアラシ】

出身地 旭川市

好きな動物 ライオン・馬 趣味 ランニング・スポーツ観戦

旭山動物園の印象 ・北海道有数の観光施設
・海外からも多くの人が訪れる動物園

意気込み 動物たちが健康で元気に暮らしてくれることを第一に考えて飼育業務に取り組みたいです。来園してくれたみなさんにも楽しんでもらいたいです。



荒井 孝典 (あらい たかのり) 【担当: 北海道産小動物・フラミンゴ】

出身地 旭川市

好きな動物 ペンギン 趣味 アイスホッケー、美術館巡り

旭山動物園の印象 以前に所属していた部署のときから業務で関わらせていただき、飼育・管理ともに和気藹々とした印象があります。

意気込み あこがれていた旭山動物園の職員になれたこと、とても光栄に思います。動物をはじめとした旭山動物園の魅力を多くの人に伝えていけるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願いします!

主なできごと

- 5月1日 夏期開園 マヌルネコ舎、わくわく広場、
みんなの広場公開、マイボトル洗浄機設置
5月3日 ワオキツネザルの「ナスカ」出産
6月10日 マヌルネコの「ヒデ」名古屋市東山動植物
園より来園



- 6月18日 シンリンオオカミの「ヌプリ」死亡(老衰)
7月1日 59回目の開園記念日
7月2日 ミナミイワトビペンギン孵化(19日死亡)
7月18日・19日
インドクジャク2羽孵化
7月19日 障がい者夜間特別開園
7月29日～8月22日
「クワガタ・カブトムシ展」開催
7月24日 「昆虫ハウス」オープン

- 8月1日・2日 「第49回旭山動物園サマースクール」開催
8月5日 アビシニアコロブスの「アビ」出産
アムールヒョウの「みらい」出産



- 8月10日～16日 「夜の動物園」開催
8月14日・15日 「シマフクロウDAY」開催
9月7日～30日 「鳴き虫展」開催
9月7日 オオワシ1羽が八木山動物公園に移動
9月9日 オオワシ1羽とオオハクチョウ1羽が八
木山動物公園から来園
9月13日 「エゾシカまるごと体験」開催
9月20日 「おじいちゃん、おばあちゃんと夜の動物
園にいこう!」開催
9月26日・27日 「あにまるハッピーマーケット」開催

編集後記

今夏は北海道らしい涼しさでしたね。動物たちも例年に比べ快適そうでした。しかしこの涼しさ、温暖化していくさなかの一時的なブレにすぎないという意見もあります。ゲリラ雨も増えるなど、自然環境の変化は確実に起きており、どう対応するべきか問われます。変化に抗うだけでなく、受け入れることも必要な段階かもしれません。動物園散策は自然散策に比べ、安全で楽しく環境を肌で感じる良い機会です。動植物の様子、天候や音、匂いなどを全身で浴びて、自然環境に思いを馳せてほしいです。(上江)

最新情報はここでチェック!!



公式HP



Facebook



X
(旧Twitter)



Instagram



モユク・カムイ No.129 令和8年10月20日

- 発行所／旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行人／中田 真一
- 表紙絵／第58回旭川市旭山動物園児童動物画コンクール
優良賞 秋月こども園 森いちのさん
- 編集／中田 真一・中村 亮平・佐賀 真一・原田 佳・上江 昌弘
- 印刷／(株)須田製版：〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 ☎011-621-1000



飼育動物数

令和8年8月末現在

- 哺乳類 41種・332点
- 鳥類 56種・279点
- は虫類 9種・30点
- 両生類 4種・30点
- 合計 110種・671点